

令和4年(2022年)6月7日
記者会見資料
土木課

地域住民の作成による水害手作りハザードマップを活用した 大雨避難行動訓練の実施について

1 趣 旨

水害手作りハザードマップ（以下、ハザードマップ）は、水害発生時に迅速かつ安全に避難行動が可能となることを目的に、水害を自らの問題ととらえ、地域住民が主体となり作成した地図です。

ハザードマップ作成の対象地域は、大田川流域内の過去に浸水被害があった5地区のコミュニティで、現在までに3地区が作成を行い、昨年度は、明倫コミュニティが作成しました（別添1）。作成したハザードマップについては、各コミュニティで配布され、現在は、各地区の市民館や公民館で配布しています。既に作成したコミュニティ及び配布場所については下表のとおりで、今後は、大田コミュニティ及び平洲コミュニティでも作成する予定です。

作成年度	地区	配布場所
令和元年度（2019年度）	加木屋コミュニティ	加木屋市民館
令和2年度（2020年度）	船島コミュニティ	船島市民館
令和3年度（2021年度）	明倫コミュニティ	富田公民館

また、今年度の6月に、作成したハザードマップを基にした大雨避難行動訓練を明倫コミュニティ及び加木屋コミュニティで実施します。なお、船島コミュニティは、秋に実施する予定です。

2 背 景

市では、平成28年（2016年）2月に国の支援制度である「100mm/h安心プラン」に登録された「東海市大田川流域における浸水対策推進プラン」（別紙1）を計画期間10年間（平成28年度（2016年度）から令和7年度（2025年度）まで）として進めています。ハザードマップの作成は推進プランの取組内容の一つである「コミュニティが主体となった避難行動計画の策定」の基となるものです。

3 訓練内容

(1) 明倫コミュニティ

ア 日 時：令和4年（2022年）6月11日（土）

午前9時から午後0時30分まで

イ 場 所：富田公民館（体育館）及び二級河川渡内川周辺地区

ウ 参加者：明倫コミュニティの地域住民

エ 内 容：作成したハザードマップを基に、危険箇所、避難経路、避難場所を確認しながら、まち歩きを行う。まち歩きを行って体験した自らが住む地域の災害リスクを予測するとともに、各個人の避難行動計画となる、マイタイムラインを作成する。

(2) 加木屋コミュニティ（市主催の水防訓練（別紙2）との合同訓練）

ア 日 時：令和4年（2022年）6月19日（日）

午前9時30分から午前11時まで

イ 場 所：東海消防署南出張所及び二級河川大田川周辺地区

ウ 参加者：加木屋コミュニティの地域住民

エ 内 容：市が主催する水防訓練と合同で、ハザードマップ（別添2）を基に、まち歩きを行う。

【計画名称】

とうかい おおたがわ 東海市大田川流域における浸水対策推進プラン

【愛知県東海市】

流域の概要

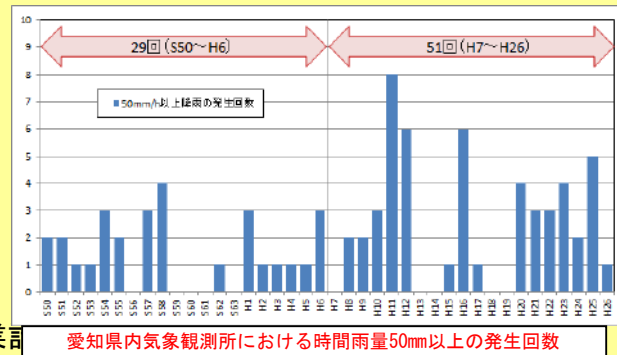
○愛知県東海市の中央部に位置する大田川流域では近年多発する局地的豪雨により、浸水被害が生じている。

○直近では平成21年10月台風18号（86mm/h）により大田川流域において床上浸水37戸、床下浸水51戸の浸水被害が発生した。

○愛知県において時間雨量50mm以上の発生回数は以下のとおりである。

- ・S50～H6の20年間での発生回数：29回
- ・H7～H26の20年間での発生回数：51回

時間雨量50mm以上の発生回数が増加傾向



○市街化の進展により流出量が増加

- ・流域内の市街化率
- S46年：22%→H3年：48%→H21年：58%

○河川・下水の法定計画

- ・河川（整備計画 W=1/5）、下水道（雨水：事業計画）

⇒頻発する局地的豪雨に対して早急な治水対策が急務

○浸水対策推進プランで対象とする降雨 平成21年10月台風18号 最大時間雨量86mm

浸水被害の主な要因

○流域内の市街化の進展など土地利用の変化により、雨水が河川へ流れ込みやすくなり、流域から河川への雨水の流出量が増加。

○流域内の市街地は周辺と比べ地盤が低く、計画を越える規模の降雨においては地盤の低い箇所の排水が行えず、内水被害が発生。

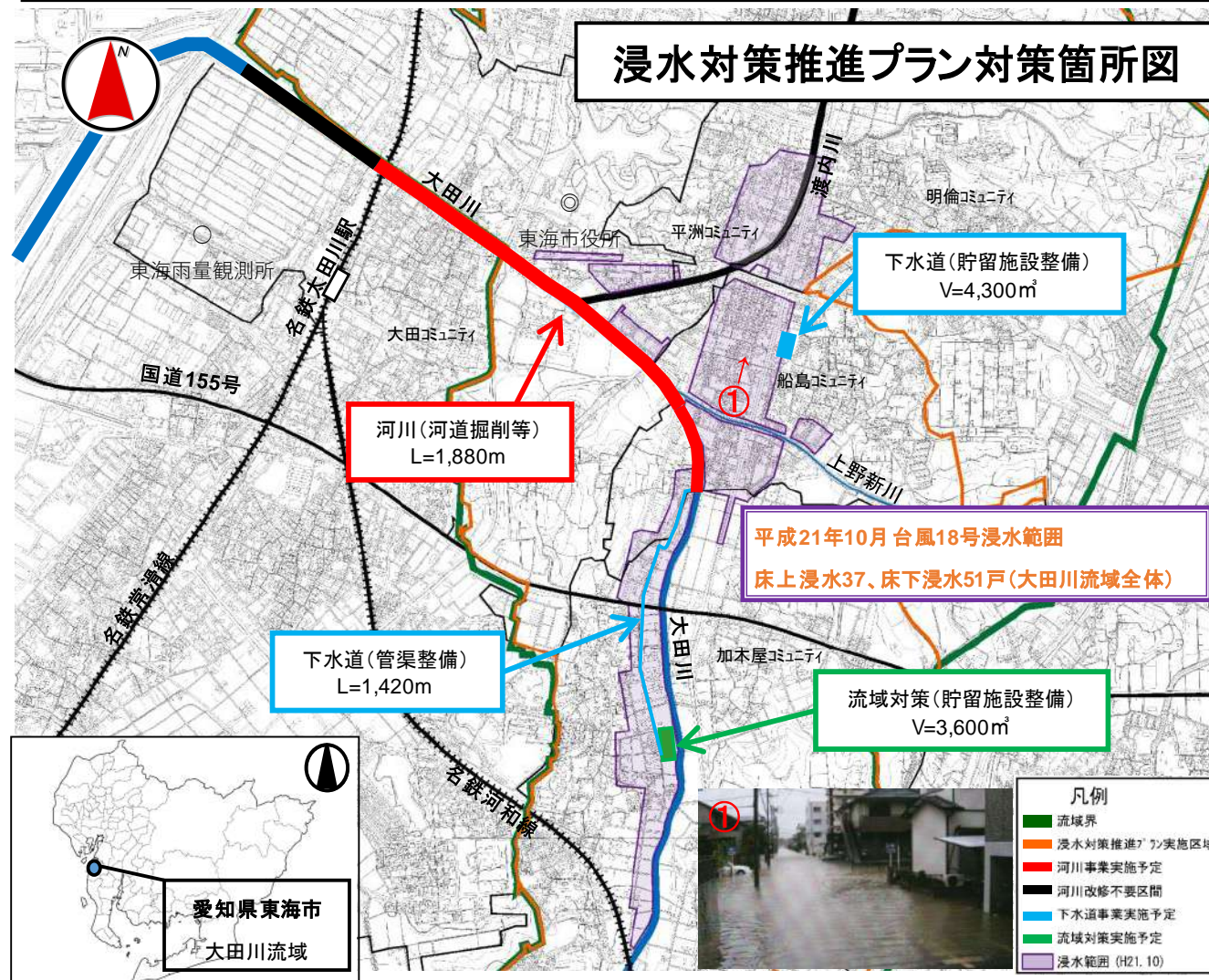
⇒流域の関係機関が一体となりハード・ソフトの治水対策を効果的に組み合わせ推進する必要がある

大田川流域の総合的な治水対策について、愛知県・東海市・地域住民・地元民間企業等からなる「大田川流域浸水対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

大田川流域浸水対策協議会

組織	部 局
県関係	愛知県知多建設事務所河川港湾整備課、都市施設整備課
市関係	東海市都市建設部土木課、水道部下水道課
住民	東海市明倫コミュニティ、平洲コミュニティ、大田コミュニティ、船島コミュニティ、加木屋コミュニティ
ため池管理団体	姫島町内会、加木屋水利協同組合
企業	日本製鉄(株)名古屋製鉄所、知多メディアネットワーク(株)

浸水対策推進プラン対策箇所図



取組内容

取組内容	効果	事業主体
法定計画等に基づく河川・下水道の整備による浸水対策		
・河川事業（二級河川大田川水系河川整備計画）河道掘削等	安全に雨水を流下させる	愛知県
・下水道事業（東海市公共下水道事業計画）姫島公園調整池、雨水管渠整備	地表面の水を速やかに排除する	東海市
分散型貯留浸透施設等による流域対策		
・流域貯留施設の整備（木之下地区調整池）	地表面の水を速やかに排除する	東海市
・市ため池管理団体が協定を締結し、大雨時に水位調整を実施	ソフト対策による被害軽減	東海市、ため池管理団体
危険情報周知の対策		
・ホームページ・CATVを利用した雨量、河川水位情報、河川カメラの画像等を提供	ソフト対策による被害軽減	東海市
・緊急速報メールにより雨量や水位等の情報を配信		東海市
・危険箇所を記したハザードマップを全戸に配布		東海市
・浸水実績表示板及び量水板を設置		東海市
・姫島公園調整池に水位計を設置		東海市
・河川監視カメラ・サイレンを設置（富木島町地区）	東海市	
地域における水防活動強化の取組		
・地域住民が主体となり、地域コミュニティ毎に水防訓練を実施（防災訓練は実施中）	ソフト対策による被害軽減	住民（コミュニティ）
まちづくりや住民（団体）、民間企業等における水害対策への取組		
・土嚢の無料配布を実施	ソフト対策による被害軽減	東海市
・市土木課管理の道路・水路の清掃活動を実施		住民（コミュニティ）
・東海市内の住宅などを対象に、雨水貯留浸透施設の設置に際して補助		東海市
・浸水区域内における浸水対策改修等工事を行う者に対して補助		東海市
・浸水地区における建築確認相談時に嵩上げ指導を実施		東海市
・コミュニティが主体となった避難行動計画の策定		住民（コミュニティ）
・出水期前に道路側溝、水路の合同点検を実施		東海市
・防災FM放送を利用した浸水危険情報の発信を実施		東海市
・水防訓練等へ地元企業が参加・協力		住民（コミュニティ）

取組の効果

対象とする降雨に対して、床上・床下浸水被害の低減及び浸水エリアの縮小を図る。

令和 4 年度東海市水防訓練実施計画

1 目的

水防法（昭和 24 年法律第 193 号）に基づき、東海市防災訓練の一環として、大田川流域を対象に水防訓練を実施し、水害に対する警戒意識の向上を図るとともに、大雨時等の越水対策及び情報伝達を主体した訓練を行うものである。

2 実施日時

令和 4 年（2022 年）6 月 19 日（日）

午前 9 時 30 分から午前 11 時まで

3 実施場所

- (1) 東海市消防署南出張所：水防本部
- (2) 加木屋町地内大田川河川区域：越水対策訓練会場
- (3) 加木屋コミュニティ地区：避難行動訓練

4 参加者（関係協力機関等を含む。） 合計 258 名（予定）

- (1) 市役所職員、消防本部、消防団員、防火協力会、大田川流域浸水対策協議会、東海市防災活動協力業者協会、東海ドローン協会

5 訓練内容

- (1) シート張り工法による洗掘対策訓練及び改良積み土のう工法による越水対策訓練
- (2) 巡視警戒要員及び本部の情報伝達演習訓練
※情報伝達演習訓練は、大田川流域浸水対策協議会のメンバーの内、事前に登録したメールアドレスに、メールを送信する。
- (3) 大雨避難行動訓練
※加木屋コミュニティが水害手作りハザードマップを活用したまち歩きを行う。
- (4) ドローン空撮による情報収集訓練
※当日の天候により中止する場合があります。

情報収集先

・東海市HP
http://www.city.tokai.aichi.jp/



・気象庁HP
https://www.jma.go.jp/jma/index.html



・東海市 河川水位等情報提供サービス
http://kasenjohou.city.tokai.aichi.jp/



・国土交通省 防災情報提供センター
https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/



・東海市防災Twitter
https://twitter.com/tokai_bousai



・愛知県 川の防災情報
https://www.kasen-aichi.jp/



・東海市 防災危機管理課
http://www.city.tokai.aichi.jp/16872.htm



・愛知県 川の水位情報（木庭橋）
https://k.river.go.jp/



・メディアス防災チャンネル
・メディアスエフエム（FM83.4MHz）
・エリアメール
・防災ラジオ

わが家の防災メモ（必要な部分に書き込んでおきましょう）

	氏名	電話（会社・学校）	血液型	病 気	常 備 薬
家族等の 連絡先・ 救急用データ					

広域避難場所	広域避難所（広場）	拠点避難所（施設）	家族で決めた集合場所
拠点避難場所			

適切な避難行動をするために

避難するときは・・・ 【水害の場合】

・立ち退き避難（近隣の安全な高所への避難）

・在宅避難（高所階への避難）



水平避難



「避難する」とは必ずしも避難所に行くことではありません。

「避難する」とは安全を確保する行動です。 ※避難途中でも遭難の可能性があります。



明倫コミュニティ版

2021年度
保存版

水害手作りハザードマップ



へいしゅうご
Heishu Hosoi

自分の命は自分で守る
ハザードマップはいつも
手の届くところに！！

水害ハザードマップとは？

主に浸水想定区域と避難に関する情報が記載されている地図です。明倫地区の水害などに関する情報を事前に知ることにより、災害発生時に迅速かつ安全に避難行動が可能となることを目的としています。令和3年度に明倫コミュニティがNPO法人と一緒に作成しました。

ハザードマップの使い方

- 1 自分の住んでいる家の位置を確認する。
- 2 どのような水害リスクがあるかを確認する。
近くに川があるか、いつも氾濫するような水路はあるか、予想される浸水の深さはどのくらいか、避難所の位置、または近所に避難できるようなところはあるか。
- 3 家の位置、家族構成、家の構造から在宅避難（垂直避難）か立ち退き避難（水平避難）が必要かを判断する。
- 4 立ち退き避難（水平避難）する場合、いつ（避難のタイミング）、どこへ、どのように（危険箇所を避け）安全に逃げたらよいかを確認する。

2021年11月

明倫コミュニティ



- 凡例**
- 避難所
 - 一時避難場所
 - 水が早めに浸かりやすい場所
 - 水が流れ込む方向
 - 雨水マンホール
 - フタの開いた側溝
 - 避難路
 - 標高(メートル)
 - その他危険箇所
 - 水路や橋等に柵がないため転落危険

注意点

- 側溝にフタが無い場所が目立つ。古い家や駐車場に、フタが無いことが多い。長いスパンで無い所がある。
- 地面に段差のある所が多い。側溝のフタが、段差になっている箇所がある。
- 水路が多く、転落する可能性がある場所に柵がない。
- すり鉢状の土地で、水はけが悪い。東海豪雨の時、床上浸水している。
- この地区の避難行動は、自宅の2階以上への避難(垂直避難)が望ましい。



今後の課題

<課題>

- 避難の判断が難しい。
- どこへ避難するか、判断ができない。
- 水門にゴミが溜まっている。管理が必要。

<要望>

- 渡内川の砂の堆積が多く、早く浚渫してほしい。
- 渡内川の護岸に砂の吹き出しが見られる。護岸は未舗装で不安。



中州が多い

湧水あり天端が未舗装

東海豪雨時、水位約1m

水路フタなし

昔の水路(現在は暗渠)

鉄板のフタ、大雨の時危険



富田公民館へ

富木島中学校

富木島町

2019年11月
加木屋コミュニティ



- 凡例**
- 避難所 ①
 - 一時避難場所 ②
 - 水が早めに浸かりやすい場所 ③
 - 水が流れ込む方向 ④
 - 雨水マンホール ⑤
 - フタの開いた側溝 ⑥
 - 避難路 ⑦
 - 標高(メートル) ⑧
 - その他危険箇所
水路や橋等に柵がないため転落危険 ⑨

今後の課題

<課題>

- 大雨の後、側溝の掃除をする。
- 熊野神社を一時避難場所として許可を取ってほしい。

<要望>

- 開いた側溝や水路に、フタや手すりをつけてもらう。
- 集会所前にガードレールが必要。

注意点

- 側溝のフタが無い箇所多数あり。
- 段差は各所にあり。
- 川沿いはガードレール・手すり無し。
- 排水路周りのガードレールが無い箇所が多数ある。
- 避難時、水が溜まって見えなくなった側溝に注意する。
- 雨水マンホール、多数あり。
- 横須賀中学校への避難は、急な坂道を登る必要があり、高齢者・体の不自由な方、小さな子供には難しい。
- 2F以上の家は垂直避難可能か考える。
- 避難は半田街道より西へ。

(注意点に追加してください)

加木屋コミュニティの大規模災害時の避難所は、加木屋小学校となります。



道路の両サイドに側溝を設け、西から流れてくる水を大田川へ流し込みたい